

地震予測の現状と防災情報を
生かすには
—高齢者施設で津波避難ビル
でもある当院からの報告—

平成30年2月2日

静岡広野病院

院長 田宮健

静岡広野病院の紹介

医療と介護の療養型病院

全床 198床

半介助～全介助の方がほとんど

職員数 約120名

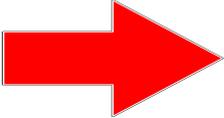


津波浸水予想域



大規模災害に対する当院の基本方針

- ① 立地条件や高齢者施設としての身の丈に合った対策
- ② 地域と連携
- ③ 職員の家族も当院へ避難でき、安心して病院・自宅・地域の災害復旧にあたれる

 「大規模災害時、職員のみでは対応困難」
が出発点！

当院の今までの取り組み

2007年～ 東海大地震に備えて住民の当院への津波避難訓練開始
「逃げてきてください！助けてください！」と呼びかけ

2011年3月11日 東日本大震災

5月 津波避難訓練 住民200名以上参加

7月 津波避難ビルに指定

2015年～ 近隣世帯に水害・台風時に当院駐車場提供を開始

2017年11月

東海地震 警戒宣言	南海トラフ地震に関する <u>臨時情報</u>
数時間から3日以内に発生	平常時に比べて <u>相対的に高まっている</u>

でも・・・臨時情報が出たら・・・

多数の住民の方が「事前避難させてくれ！」と
殺到するのでは！！

病院としては、通常業務があるし・・・





地震発生後

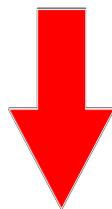




そうだ！臨時情報が出た時の対策を町内会と
相談しよう！



さっそく町内会長さんと会いました
(今年1月中旬)



【話し合い結果】

- ① 臨時情報発表時、町内会の主な役員は当院に集まり災害対策本部の一員になったらどうか。
- ② 民生委員も一員として、一人暮らしの高齢者など支援を必要とする人を選択し、優先的に当院へ事前避難させたらどうか。
- ③ 今後も話し合いを重ねていく。

重要！

災害時、高齢者介護の現場の課題

- ① 施設では、マンパワーが不足し、利用者の避難は困難だ。
- ② そもそも、歩いて避難所まで行ける人はほとんどいない。
- ③ ヘルパーやデイサービスを利用している人を助けたい……。
- ④ 地震後のことは何も決めていない……。
- ⑤ でも、給与はどうなるの……。

医療・介護の職にいる人は、
みんな「利用者を助けたい！」と思っているのに！！

まとめ(要望・提言)

1. 自治体は、臨時情報発表時、事前避難のため、予め指定避難所・福祉避難所・空き家・津波避難ビル等の利用法のガイドラインを策定したらどうか。
2. 介護事業所ごとのBCP（災害後の業務継続計画）の策定指導を行ったらどうか。

